

# 安全データシート(SDS)

## KBD UVクリーン・エコⅢ

作成日 2006年09月05日

改訂日 2013年10月22日

### 1.化学物質等及び会社情報

製品名	KBD UV クリーン・エコⅢ
製品コード	S-1014
会社名	三成化工株式会社
住所	大阪府大阪市城東区関目 4-11-38
電話番号	06-6932-3531
緊急時の電話番号	090-1133-1763
FAX 番号	06-6932-3830
メールアドレス	<a href="mailto:sanseikakou@sunny.ocn.ne.jp">sanseikakou@sunny.ocn.ne.jp</a>
推奨用途及び使用上の制限	印刷インキの洗浄液

### 2.危険有害性の要約

#### GHS 分類

物理化学的危険性	火薬類 可燃性・引火性ガス 可燃性・引火性エアゾール 支燃性・酸化性ガス 高压ガス 引火性液体 可燃性固体 自己反応性化学品 自然発火性液体 自然発火性固体 自己発熱性化学品 水反応可燃性化学品 酸化性液体 酸化性固体 有機過氧化物 金属腐食性物質	分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 区分4 分類対象外 分類対象外 区分外 分類対象外 分類できない 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類できない
健康に対する有害性	急性毒性 (経口) 急性毒性 (経皮) 急性毒性 (吸入: ガス) 急性毒性 (吸入: 蒸気) 急性毒性 (吸入: 粉じん) 急性毒性 (吸入: ミスト) 皮膚腐食性・刺激性	区分外 区分外 区分外 分類できない 分類対象外 分類できない 区分外

環境に対する有害性	眼に対する重篤な損傷・刺激性	区分 2A
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分外
	生殖細胞変異原性	区分外
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分外
	特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	区分 2 中枢神経
	特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	区分外
	吸引力呼吸器有害性	分類できない
	水生環境急性有害性	区分外
	水生環境慢性有害性	区分外

### GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

警告

可燃性液体

強い眼刺激

中枢神経系の障害のおそれ

注意書き

**【安全対策】**

熱、火花、裸火のような着火源から遠ざけること。一禁煙

この製品を使用する時に、飲食や喫煙をしないこと。

保護手袋、保護衣および保護眼鏡／保護面を着用すること。

ミスト／蒸気／スプレーなどを吸入しないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

**【応急措置】**

火災の場合には適切な消火方法をとること。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタ

クトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。

その後も洗浄を続けること。

眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、

手当てを受けること。

ばく露した時、又は気分が悪い時は、医師に連絡すること。

**【保管】**

換気の良い冷所で保管すること。

施錠して保管すること。

**【廃棄】**

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理

業者に業務委託すること。

国・地域情報

### 3.組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物	
化学名	グリコールエーテル類	ヘキシレングリコール
化学式	非公開	C <sub>6</sub> H <sub>14</sub> O <sub>2</sub>
CAS 番号	非公開	107-41-5
官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	非公開	(2)-240
含有量	90~100%	5%以下

#### 4.応急措置

吸入した場合	気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	水と石鹸で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。 その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
予想される急性症状及び 遅発性症状	皮膚：乾燥(急性症状)、脱脂(長期又は反復ばく露) 眼：発赤、痛み(急性症状)
最も重要な兆候又は症状	情報なし
応急措置をする者の保護	救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。
医師に対する特別注意事項	情報なし

#### 5.火災時の措置

消火剤	水噴霧、耐アルコール性泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	棒状注水
特有の危険有害性	熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。 激しく加熱すると燃焼する。 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 容器が熱に晒されているときは、移さない。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

#### 6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具および緊急措置	全ての着火源を取り除く。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。

回収・中和	不活性材料（例えば、乾燥砂又は土等）で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。
封じ込め及び浄化方法・機材 二次災害の防止策	危険でなければ漏れを止める。 すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	『 8. ばく露防止及び保護措置 』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気	『 8. ばく露防止及び保護措置 』に記載の局所排気、全体換気を行なう。
安全取扱い注意事項	火気注意。 皮膚との接触を避けること。 眼に入れないこと。 ミスト／蒸気／スプレーなどを吸入しないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。
接触回避	『 10. 安定性及び反応性 』を参照。
保管	
技術的対策	消防法の規制に従う。
混触禁止物質	『 10. 安定性及び反応性 』を参照。
保管条件	冷所、換気の良い場所で保管すること。 施錠して保管すること。 酸化剤から離しておくこと。
容器包装材料	消防法で規定されている容器を使用する。

## 8. ばく露防止及び保護措置

化学名	グリコールエーテル類	ヘキシレングリコール
管理濃度	未設定	未設定
許容濃度 日本産業衛生学会	未設定 (2009年版)	未設定 (2005年版)
許容濃度 ACGIH TLV-TWA	未設定 (2009年版)	25ppm (2005年版)

設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
保護具	
呼吸器の保護具	状況に応じて有機ガス用防毒マスクを着用すること。 (推奨製品：直結式小型防毒マスク GM31 と吸収缶を使用)
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	状況に応じて保護長靴、保護腹、保護前掛けを着用すること。
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。

## 9.物理的及び化学的性質

物理的状態	
形状	液体
色	無色透明
臭い	特徴臭
pH	データなし
融点・凝固点	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
引火点	70°C以上
自然発火温度	データなし
燃焼性(固体、ガス)	データなし
爆発範囲	データなし
蒸気圧	>1
蒸気密度	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	データなし
比重(密度)	0.930
溶解度	水に易溶
オクタール・水分配係数	データなし
分解温度	データなし
粘度	データなし
粉じん爆発下限濃度	データなし
最小発火エネルギー	データなし
体積抵抗率(導電率)	データなし

## 10.安定性及び反応性

安定性	法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	爆発性過酸化物を生成することがあると推測される。 強力な酸化剤と反応する。
避けるべき条件	裸火
混触危険物質	強力な酸化剤
危険有害な分解生成物	爆発性過酸化物

## 11.有害性情報

急性毒性	ヘキシレングリコールの情報			
	経口	ラット	LD <sub>50</sub>	4470mg / kg 4700mg / kg 3700mg / kg 4760mg / kg 3680mg / kg 4790mg / kg 4200mg / kg
				のデータがあるが、ラットを用いた OECD 402 準拠 GLP 試験において LD <sub>50</sub> 値: >2000mg / kg であったとの記述から、2000mg / kg 以下では死亡は認められないと判断し、区分外とした。
	経皮	ウサギ	LD <sub>50</sub>	>5000mg / kg

	>1840mg / kg
	12300mg / kg
	>8680mg / kg
	7900mg / kg
	>10000mg / kg
	ラット LD <sub>50</sub> >2000mg / kg
	に基づき、ラットでは 2000mg / kg 以下では死亡は認められないと判断し、区分外とした。
	吸入 蒸気 データなし
	吸入 粉じん データなし
皮膚腐食性・刺激性	ウサギを用いた皮膚刺激性試験において 4 時間ばく露で刺激性が認められなかったとの記述から、区分外とした。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	ウサギを用いた眼刺激性試験(OECD ガイドライン 405 準拠 GLP 試験)では刺激性の基準に適合する眼の変化は認められなかったが、ウサギの眼に適用した試験において強い刺激性が認められたとの記述、ならびにウサギを用いたドレイズ試験では眼の変化が 7 日以内に完全に回復しなかったことから、区分 2A とした。
	強い眼刺激
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性：データなし 皮膚感作性：モルモットを用いた Buehler test において陽性反応は認められなかったとの記述から、区分外とした。
生殖細胞変異原性	in vitro 試験で陰性のデータしかないため分類できない。
発がん性	データなし
生殖毒性	ラットを用いた経口投与による催奇形性試験において母動物に一般毒性が認められる用量でも明確な生殖毒性は認められなかったとの記述から、区分外とした。
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	ヒトばく露例で気道刺激性が認められたとの記述、ならびにラット又はマウスを用いた経口投与試験において麻酔作用を示唆する症状が認められたとの記述から、区分 3(麻酔作用、気道刺激性)とした。
	呼吸器への刺激のおそれ
	眠気及びめまいのおそれ
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	ラットを用いた経口投与試験又はウサギを用いた経皮投与試験において区分 2 のガイダンス値範囲を超える用量でも重大な毒性作用が認められなかったとの記述から、区分外とした。 又、ヒトを対象とした経口投与試験において毒性症状は認められなかったとの記述がある。
吸引性呼吸器有害性	データなし

## 12. 環境影響情報

水生環境急性有害性	ヘキシレングリコールの情報 魚類 (ヒメダカ) の 96 時間 LC <sub>50</sub> >100mg / L から、区分外とした。
水生環境慢性有害性	難水溶性でなく(水溶解度 = 1.00×10 <sup>6</sup> mg / L)、急性毒性が低いことから、区分外とした。

---

### 13.廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
汚染容器及び包装	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

---

### 14.輸送上の注意

国連番号	該当しない
指針番号	該当しない
国際規制	
海上規制情報	非危険物
航空規制情報	非危険物
国内規制	
陸上規制情報	消防法の規定に従う。
海上規制情報	非危険物
航空規制情報	非危険物
特別の安全対策	移送時にイエローカードの保持が必要。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。

---

### 15.適用法令

労働安全衛生法	名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9) ヘキシレングリコール (政令番号：9-593)
有機則・特化則・PRTR 法	非該当
消防法	危険物 第 4 類 第 3 石油類 水溶性液体 指定数量 4000L、危険等級Ⅲ

---

### 16.その他の情報

参考文献	GHS 混合物分類判定システム GHS 改訂 2 版対応版 安全衛生情報センター(MSDS)
災害事例	情報なし
記載内容の取扱い	記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。 含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。 注意事項は通常の手取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合は、用途、用法に適した安全対策の実施にご配慮をお願い致します。 また、記載内容は情報提供であってその内容を保証するものではありませんので、重要な決定をされる場合は出典等をよく

検討されるか試験によって確かめられることをお勧めします。